

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
国語	現代文A	2	3	セラミック デザイン 電気 機械	必修	「現代文A改訂版」 大修館書店

1. 学習の到達目標

- 1 近代以降の様々な文章を読み、文章を読む楽しさを味わい読書に親しむ。
- 2 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。
- 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する理解を深める。
- 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
評価の規準	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立てるための音声文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、基礎力テストなどを総合的に判断して評価します。		

3. 教科からのメッセージ

人間は言葉によって思考します。言葉を理解する能力は人間の知的活動の根幹となるものです。また、就職試験、進学試験では、国語の基礎的な知識や表現力が必ず問われています。その意味でも、ぜひしっかり勉強して欲しいと思います。

令和4年度 現代文A指導計画案

現代文A	セラミック・デザイン 電気・機械	2単位
------	---------------------	-----

1 学習計画

学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容
1 学 期	1 ことばと社会 ○小川洋子 「きっと叶いますよ」 ○長谷川權 「和の思想、間の文化」 ○上田恵介 「ウサギの耳はなぜ赤い」 ○川上弘美 「排球、そして千利休」	2 学 期	1 ことばと文学 ○吉本ばなな 「ざしきわらし」 ○中島敦 「山月記」 ○夏目漱石 「ころろ」	3 学 期	1 ことばと社会 ○立松和平 「幸せの分量」 ○山田昌弘 「家族化するペット」
	2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・情報の探し方		2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・意見文の書き方		2 基礎力テスト (1回10分・月1回) 言語活動 ・研究発表のしかた

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
国語	国語表現	2	3	セラミック デザイン 電気 機械	選択	「国語表現」 大修館書店

1. 学習の到達目標

- 1 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現する態度を育てる。
- 3 国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
評価の規準	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。	表現と理解に役立てるための音声文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、基礎力テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

人間は言葉によって思考します。言葉を理解する能力は人間の知的活動の根幹となるものです。また、就職試験、進学試験では、国語の基礎的な知識や表現力が必ず問われています。その意味でも、ぜひしっかり勉強して欲しいと思います。

令和4年度 国語表現指導計画案

国語表現	セラミック・デザイン 電気・機械	2単位
------	---------------------	-----

1 学習計画

学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容
1 学 期	1 書いて伝える ○整った文を書く ○わかりやすい文を書く ○文のつなぎ方 ○絵や写真を見て書く 2 自己PRと面接 ○効果的な自己PR ○志望動機をまとめよう ○面接にチャレンジ	2 学 期	1 小論文・レポート入門 ○小論文とは何か ○反論を想定して書く ○統計資料を読み取って書く ○レポートを書く 2 メディアを駆使する ○通信文を書き分ける ○電話を使いこなす ○ネット社会とコミュニケーション ○メディアと情報	3 学 期	1 声とコミュニケーション ○リーダーズシアターを開こうー朗読劇の楽しみ ○ショートスピーチをしよう 2 会話・議論・発表 ○相手や場面に応じた会話 ○建設的な議論の進め方 ○プレゼンテーションの工夫

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
地理歴史	地理A	2	3	全科	必修	世界に目を向け,地域に学ぶ 第一学習社

1. 学習の到達目標

現代社会に生きる私たちにとって、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養うことが大切です。地理Aでは、現代世界の地理的な諸課題について地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けることが目標です。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
評価の規準	地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立ち諸事象を位置や空間的な広がりの中で理解すると共に、各地域の課題や将来像について考えようとする。	地理的事象から課題を見出し、諸地域を比較し関連づけて追究し、判断する。さらに地球規模の諸課題を国際協力によって解決していくための地理的認識を深めようとする。	地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなどを通して地理的事象を見だし、考察し、調査結果をまとめ、表現している。	地理的事象から各地域の特性を理解し、作業的、体験的な学習を通して地理的技能を身につけ、それを系統的に使いこなすことができる程度の知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

様々な国との関わりが不可欠である現代社会において、まず「他の国や自分の住む国や地域を知ること」を通して、世界の国々に興味をもつとともに、今後の日本や地域の在り方など自身が生きる環境を地理的視点から考えてもらいたいと思います。

目 標		現代世界の地理的な諸課題について、地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	
月	大項目	中項目	時数
4	第1編 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 1章 地球儀や地図でとらえる現代世界	①球面で世界を考えよう ②世界地図の特徴を知ろう ③世界観の広がりや地図 ④国家の領域と領土問題 ⑤国家をこえた結びつき ⑥交通機関の発達と縮小する地域世界 ⑦情報・通信で一体化する世界 ⑧人「もの」・資本で結びつく世界	6
5	2章 世界の人々の生活を取りまく地球的環境	①さまざまな環境のなかで暮らす人々 ②世界的視野から見た地形 ③さまざまな地形と生活 ④世界的視野から見た気候 ⑤世界の気候と生活 ⑥世界の民族のさまざまな生活・文化 ⑦生活・文化を支える産業の地域性	6
6	3章 世界の諸地域の生活・文化と環境	①東アジア ②東南アジアの暮らしを学ぶ ③南アジアの暮らしを学ぶ ④北アフリカ・西アジア・中央アジアの暮らしを学ぶ ⑤仲南アフリカの暮らしを学ぶ ⑥ヨーロッパの暮らしを学ぶ	8
7		⑦ロシアの周辺諸国の暮らしを学ぶ ⑧北アメリカの暮らしを学ぶ	4
9		⑨中央南アメリカの暮らしを学ぶ ⑩オセアニアの暮らしを学ぶ	8
10	4章 さまざまな地球的課題	①地域の違いとつながりに注目する ②人口問題 ③食料問題 ④都市・居住問題 ⑤資源・エネルギー問題 ⑥地球環境問題 ⑦地球的課題への取り組みと国際協力	10
11	第2編 生活圏と諸課題の地理的考察 1章 日常生活と結びついた地図	①地図をもって生活しよう ②身近な地図を読みこなそう ③地図表現について考えよう ④地形図を活用しよう	10
12	2章 自然環境と防災	①日本の自然と生活 ②自然環境に備えた暮らし	6
1	3章 生活圏と地理的諸課題と地域調査	①地域調査の方法 ②水の恵みのまち「川北町」を考える	8
2			4

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
公民	倫理	2単位(70時間)	3	全科	必修	東京書籍「倫理」

1. 学習の到達目標

先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、青年期における自己形成の課題を含めた人間の在り方生き方、人間の尊厳等について、主体的に考え、日常生活で生じる諸問題の解決をはかる能力や態度を養う。

2. 学習の計画

	単元名	学習項目	学習内容	時数
4月	第1章 青年期の課題と自己形成	○わたしたちの「いま」 1 青年期の意義 ①現代の青年 ②青年期の位置づけ ③青年期の特徴	○現代社会の諸問題や、日本の現状を考えると、生徒が生活している「いま」の状況を把握し、倫理学習の導入とする。 ○人生における青年期の位置づけ、特徴などについて考え、青年期特有の課題であるモラトリアムとしての時期、アイデンティティの確立、自己実現の追求、自己理解の方法などについて学ぶ。	3
5月		2 青年期の課題と生き方 ①主体性の確立 ②自己理解 ③幸福と生きがい		3
6月	第2章 人間としての自覚	1 人間とは何か ①人間と哲学 2 ギリシャの思想 ①自然哲学とソフィスト ②ソクラテス ③プラトン ④アリストテレス ⑤ヘレニズム時代の思想	○人間の定義について考えた上で、パスカルの言葉を手掛かりに、哲学することや、先人の思想を学ぶ意義について理解する。 ○ギリシャ思想は、自然哲学、ソクラテス・プラトン・アリストテレスの生涯と思想、中心に理解する。	2 5
6月		3 キリスト教 ①旧約聖書の倫理 ②イエスの教え ③キリスト教の展開	○世界の三大宗教であるキリスト教、イスラーム、仏教の基本的な考え方だけでなく、歴史的な成立過程や、発展、拡大の経緯についても理解する。 ○一神教であるキリスト教とイスラームの共通点や相違点について考える。	4
7月		4 イスラーム ①ムハンマドとイスラームの教え ②イスラームの展開 5 仏教 ①古代インドの思想 ②ブッダの思想 ③仏教の展開	○「慈悲」と「アガペー」の違いに着目しながら両者を比較考察する。 ○儒家、老荘思想を中心に学習し、その後の中国思想の展開についても理解を深める。	4 4
7月		6 中国の思想 ①孔子と儒家の思想 ②儒家思想の展開 ③老荘思想		4

1 月		3 社会変革の倫理を求めて ①功利主義 ②社会主義思想 ③実証主義と進化論 ④プラグマティズム	○近代資本主義社会の問題とその克服について、功利主義、社会主義の思想を理解して、考えを深める。 ○人間社会の変革の思想について、実証主義や進化論、プラグマティズムの思想を理解して、考えを深める。	4
		4 新たな人間像を求めて ①主体性の回復を求めて ②現代の実存哲学 ③人間観と言語観の問いなおし	○人間や社会の在り方の急激な変化による近代的な理性への問いなおしとし、実存哲学、フランクフルト学派、構造主義など現代思想の人間観・言語観を理解する。	4
		5 自然や科学技術と人間とのかかわり ①近代的自然観 ②自然との調和	○環境問題や生命に関わる倫理的課題の解決のために、科学技術の基礎にある自然観の再検討が必要であることを、生命への畏敬の念について考慮しつつ理解を深める。	2
		6 民主社会の成熟のために ①差別と偏見のない社会 ②社会参加と奉仕 ③公共性のための場を開く	○民主社会の実現のために、あらゆる差別や偏見などの解決が求められること、またそれらとどのように関わっていくかを考える。 ○現代社会における公共性の問題について、アーレントらの思想について学習し、個人とコミュニティの関係について考えを深める。	2
1 月	第5章 現代の課題を考える (2つのテーマを選び、学習)	1 生命	○今日の生命や死、医療の問題について理解を深め、人間としての在り方生き方について考える。	(2)
		2 家族	○核家族、新しい家族形態、少子高齢化、高齢社会の中での「古い」などについて考える。	(2)
		3 地域社会	○今日の地域社会のあり方について理解を深め、これからの望ましいコミュニティについて考える。	(2)
		4 情報社会	○情報社会とは何か、その中でのメディア・リテラシーとはどうあるべきかなどを理解する。	(2)
		5 文化と宗教	○グローバル社会における文化と宗教のあり方について考えを深め、多面的な見方や共生のあり方を模索する。	(2)
		6 環境	○現在の環境問題の基本概念をふまえ、倫理的課題を明確にし、持続可能な社会のために必要な在り方生き方について考える。	(2)

		7 国際平和と人類の福祉	<p>○これまでの学習を踏まえた上で、現代世界における諸課題の倫理的問題について認識し、展望を探る。</p> <p>○物質的に豊かな社会の背後にある問題をはじめとして、本当の豊かさとは何かを考え、未来の福祉と世界の平和を構想しようとする意識を高める。</p>	(2)
--	--	--------------	---	-----

4 評価の方法

(1) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の四つの観点から把握するようにします。

関心・意欲・態度	<p>○人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。</p> <p>○倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。</p>
思考・判断・表現	<p>○他者と共に生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理課題などについて多面的・多角的に探究しようとしている。</p> <p>○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果を、様々な方法で論理的に表現している。また、それについての的確に反省し、自己評価することができる。</p>
資料活用の技能	<p>○自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題に関して様々な資料を収集、整理し、情報を主体的に選択している。</p> <p>○諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。また、それについての的確に反省し、自己評価することができる。</p>
知識・理解	<p>○青年期における自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題などに関した基本的な事柄を他者と共に生きる自己の確立の課題として理解している。</p> <p>○さらに、自己の人格形成や課題解決のために生かす知識を身に付けている。</p>

(2) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況の評価します。

イ 小テスト、課題提出状況や発表等を評価のための資料とします。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
数学	数学Ⅱ	2	3	全科	必修	数学ⅡStandard 東京書籍

1. 学習の到達目標

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の規準	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分における考え方や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数および微分・積分における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

1. 教科からのメッセージ

負の角や 360° より大きい角を考えたり、累乗の指数に自然数だけでなくいろいろな値が入れられるようにしたりして、数量の範囲を広げ、今までとは違った数学の見方、考え方をしていきます。また、座標を使って直線や図形の性質を調べたり、微分積分を使ってグラフを描いたり面積を求めたりします。このようなことを学習することで、数学の世界が広がり、いろいろな現象に対する有用性もわかり、数学を考える楽しさが増してくるはずですよ。

4. 年間指導計画

【 数学Ⅱ 】	指導項目	進 度	【 数学Ⅱ 】	指導項目	進 度
第1章 式と証明 1 整式の乗法と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式の乗法・除法 5 分数式の加法・減法 6 恒等式 7 等式の証明 8 不等式の証明 9 相加平均と相乗平均		2年次	第2節 加法定理 1 加法定理 2 加法定理の応用 3 三角関数の合成		3年次
		4月			4月
第2章 複素数と方程式 1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数分解 5 高次方程式の解法		5月	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1 指数法則 2 指数関数とそのグラフ 3 対数 4 対数の性質 5 対数関数とそのグラフ 6 常用対数		5月
		6月			6月
第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直 第2節 円、軌跡と領域 5 円の方程式 6 円と直線 7 軌跡 研究 線分の midpoint の軌跡 8 不等式の表す領域 9 連立不等式と領域		7月	第6章 微分と積分 第1節 微分法 1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 微分法の公式 4 接線 5 関数の増減 6 関数の極大・極小 7 関数の最大・最小 8 方程式・不等式への応用 第2節 積分法 9 不定積分 10 不定積分の計算 11 定積分 12 定積分の性質 13 面積		7月
		9月			9月
第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 一般角 2 弧度法 3 三角関数 4 三角関数の性質 5 三角関数のグラフ 6 三角関数を含む方程式・不等式		10月			10月
		11月			11月
		12月			12月
		1月			1月
		2月			2月
		3月			2月
		3月			3月

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
数学	数学B	2	3	全科	選択	数学B Standard 東京書籍

1. 学習の到達目標

ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の規準	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

ベクトルでは力と力が合わさったり、ぶつかったりしたらどうなるかを考えます。また、数列では映画や本で流行っていた「ダヴィンチ・コード」でもフィボナッチ数列として登場しました。数字がある規則に従って並ぶことで数学的に考えることが出来ます。内容としては難しいところもありますが、それだけ、自由な発想や論理的思考力が身に付くのではないかと考えます。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
保健体育	体育	3	3	全科	必修	なし

1. 学習の到達目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
評価の規準	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めているための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・プリントなどの提出物の状況、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

体育の授業では、体づくり運動、体育理論、選択制（希望種目）授業を行っており、学期ごとに種目を変えています。また、新体力テストの実施も行っています。

単に一過性の楽しさの追求だけでなく、技能を習得したり、高めたりする喜びや、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質を養うことが大切です。

年間指導計画 科目名 保健体育（体育） 3単位 3学年

学期	月	学習項目 (単元・考査など)	おもな学習内容
1 学期	4	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体に関心を持ち、自分の体力や生活に応じた課題を持って運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践することができるようにする。 ・体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようにする。
	5	体づくり運動 (スポーツテスト含む)	
	6 7	体育理論 選択Ⅰ 陸上競技 ダンス 器械運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。 ・互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 ・リズムのとり方や動き方、相手との対応のしかたなど自由に工夫できるようにする。 ・まとまりのある動きを工夫して踊ったり作品にまとめ発表しあったりできるようにする。
2 学期	9 10	体育理論 選択Ⅱ バレーボール ソフトボール ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 ・生涯にわたって親しめるように、各競技の特性や効果的な練習法、正しい審判法、ゲームの運営などについて理解する。 ・リズムのとり方や動き方、相手との対応のしかたなど自由に工夫してみんなで踊りを楽しみ、交流することができるようにする。
	11 12 1 2 3	体育理論 選択Ⅲ バスケットボール サッカー バドミントン 武道（剣道、柔道）	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 ・生涯にわたって親しめるように、各競技の特性や効果的な練習法、正しい審判法、ゲームの運営などについて理解する。 ・互いに相手を尊重する態度や公正な態度で安全に練習や試合ができるようにする。 ・武道の特性や伝統的な行動の仕方を理解する。
3 学期			

外国語	英語表現 I	2	3	全科	選択	SELECT English Expression I (三省堂)
-----	--------	---	---	----	----	-----------------------------------

1. 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2. 学習の評価

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語 表現の能力	言語や文化についての知識・ 理解
評価の規準	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に英語で意思伝達を図ろうとしているか。	事実や意見などを論理の展開や表現方法に工夫しながら英語で伝えているか。	英語の語法・運用についての知識を身につけるとともに、背景にある文化を理解しているか。
評価の方法	授業態度、提出物、小テスト、定期考査、口頭表現テスト		

3. 教科からのメッセージ

英語は今では世界中で使われることが最も多く、国際語のひとつに考えられています。人と人をつなぐのは言葉であり、言葉が通じるのは世界中の人々と繋がりがあえるということです。英語という世界共通の言葉を学ぶことにより多くの人々の考えを知ることができるからです。

「英語表現」では、これまで学んだ内容を応用しながら、日常使用されるやさしい表現を使って、身近な話題について英語で表現ができる基礎的な力を養います。授業を通じて、お互いの意思を伝え合う感動を味わってください。

4. 年間指導計画

教科書： SELECT English Expression I (三省堂)

A: コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 B: 外国語 表現の能力
C: 言語や文化についての 知識・理解

学期	月	学習項目	配当 時間	学習内容・言語材料	評価の観点		
					A	B	C
I	4	Introduction	5	・英語学習の目的 ・英語の学習内容・自己表現	○	○	○
	5	Lesson 11 はやぶさ2の挑戦	7	友達としていることについて書いたり話したりする表現に親しむ。 動名詞	○	○	○
	6	Lesson 12 不思議な絵	7	「芸術作品およびその作者」について書いたり話したりする表現に親しむ。 受動態	○	○	○
	7	Speaking Station 3 どこが違う？	6	違いや位置関係の説明など、描写したり、表現することに慣れる。	○	○	○
II	9	Daily Conversation 3 「道案内」の表現	7	特有の場面で使用される日常会話表現に慣れる。	○	○	○
	10	Lesson 13 ヒエログリフ	7	「過去に見た面白かったこと」について書いたり話したりする表現に親しむ。 分詞： 現在分詞/過去分詞	○	○	○
	11	Lesson 14 私たちの街にガオー	7	友達の特徴（得意なことなど）」について書いたり話したりする表現に親しむ。 関係代名詞： that, who, which	○	○	○

	12	Lesson 15 書道甲子園	6	忘れられない出来事」について書いたり話したりする表現に親しむ。 関係代名詞： what	○	○	○
III	1	Lesson 16 どれが一番？	6	何か比べて自分の好きな方を選んで書いたり話したりする表現に親しむ。 比較表現	○	○	○
	2	Lesson 17 限りある水	7	昨日見た(聞いた)こと」について書いたり話したりする表現に親しむ。 知覚動詞／使役動詞	○	○	○
	3	Lesson 18 ピサの斜塔	4	タイムマシンがあればしてみたいこと」に表現する表現に親しむ。 仮定法過去	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
外国語	英語会話	2	3	全科	選択	Hello There! English Conversation (東京書籍)

1. 学習の到達目標

英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題に関する英語での会話を聞き取ったり、英語で会話したりできる基礎的な能力を養う。

2. 学習の評価

評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語 表現の能力	外国語 理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
評価の規準	英語に関心を持ち、意欲的に授業に参加してコミュニケーションを図ろうとする態度が見られるか。	自分の考えなどを英語で表現しようとして努力しているか。 標準的な発音で英語を話そうとしているか。	英語を聞いたり話したりして、相手の考えや話の内容を理解しようとしているか。	英会話で使われる基本的な語彙や語法などの知識を身につけているか。 また、言語の背景にある文化・習慣などを理解しているか。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習への取り組み、提出物、小テスト、定期考査、パフォーマンステスト、発表などをもとに、総合的に評価します。			

3. 教科からのメッセージ

英語は外国語の一つに過ぎませんが、今では世界中で使われることが最も多く、また、ほかの言語に比べ簡単に学ぶことができるため、国際語のひとつに考えられています。

人と人をつなぐのは、まず言葉です。お互いに言葉が通じるのは、素晴らしいことです。英語という世界共通の言葉を学ぶことにより、自分の思いを世界中の多くの人々に伝えることができるだけでなく、多くの人々の考えを知ることができるからです。

「英語会話」では、これまで「英語Ⅰ」、「英語表現」で学んだ内容を復習しながら、日常使用されるやさしい表現を使って、身近な話題について英語で会話ができる基礎的な力を養います。授業を通じて、お互いの意思を伝え合う感動を味わってください。

You can do it! やればできる! Let's challenge!.

4. 年間指導計画表

教科書： Hello There English Conversation (東京書籍)

A: コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	B: 外国語 表現の能力
C: 外国語 理解の能力	D: 言語や文化についての 知識・理解

学期	月	学習項目	時間	学習内容・言語材料	評価の観点			
					A	B	C	D
I	4	Lesson 1 Nice to Meet You	5	初対面のあいさつ 自己紹介の流れの理解 対話相手の発言内容理解と応答 be 動詞と一般動詞、助動詞 (shall)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	5	Lesson 2 Hello, Friends!	7	許可を求める・与える 相手について尋ねる・答える リストアップする 助動詞 (may)、疑問詞を用いた疑問文	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	6	Lesson 3 My Favorite Music	7	意見を言う リストアップする 助動詞 (can)、What+名詞を用いた疑問文	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	7	Sakura's Adventure Episode 1	6	入国審査 ・ May I see your passport? ・ What's the purpose of your visit? ・ How long will you stay?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
II	9	Lesson 4 What Are You Crazy about?	7	興味・関心を伝える 誘う・誘いを断る 現在進行形、助動詞 (would / might)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	10	Lesson 5 A Friendly Potluck Dinner	7	許可を求める・許可する 説明する 主語の省略と命令文、否定詞を含む疑問文	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	11	Lesson 6 Are You All Right?	7	同情する 事情を理解する 現在進行形 (未来)、命令文	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	12	Lesson 7 Talking about Our Town	6	描写する 距離・方角 時間と距離・方角に関する it の用法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
III	1	Lesson 8 Traditional Culture	6	予定を尋ねる・答える 習慣を尋ねる 疑問文中の省略、未来を表す現在進行形	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2	Lesson 9 Equal Roles	7	感想・感情を述べる to 不定詞 + that 節、感嘆文 What a/an ~!、否定詞 not を含む疑問文	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	3	Lesson 10 Helping Each Other	4	推測する・主張する 動名詞主語 What is ~ like?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	課題研究	3	3	電気	必修	なし

1. 学習の到達目標

工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。さらに、生きる力を育む。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	工業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、工業に関する課題を自ら設定し、自らその課題の解決を図ることに関心があり、問題解決に向けて意欲的に取り組む学習態度を身に付けている。	自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考え、主体的に判断し、問題をより良く解決する資質や能力を身に付けており、自分の考えを他者にわかりやすく説明できる。	自ら工業に関するテーマを設定し、計画を立て、製作や調査・研究などを行い、結果を整理発表し研究を深めることができる技能と表現力を身に付けている。	課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、工業の役割、環境、自らの進路等、関連知識について総合的に理解できている。
評価の方法	出席状況、授業態度、研究の取り組み状況、工作技能、研究作品、プレゼンテーション能力などを総合的に判断して評価する。			

3. 教科からのメッセージ

「ものづくり」のおもしろさを実感できる教科である。工業高校へ入学してからの3年間の集大成であり、各個人の興味・関心にあった研究内容で、同じ気持ちを持つ仲間グループを作り研究を進めていく。もちろん、電気科の職員もサポートするが、主役は生徒達である。生徒達の自由な発想と実践力、応用力を大いに期待する。

3年（課題研究）年間計画表

単位数（3単位） 教科書（なし）

目標	工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る。学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		
月	大項目	中項目	時数
4	作品製作 調査・研究	グループ編成 テーマ設定 年間研究計画の作成 情報収集・部品の調達・設計 調査・研究・製作	34
5			
6			
7			
9	作品製作 調査・研究	調査・研究・製作 グループ間中間発表 研究成果の整理	56
10			
11			
12			
1	作品製作 調査・研究	課題研究冊子作成 卒業製作展での展示 プレゼンテーション作成 課題研究発表会	15
2			
計			105

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用副教材
工業	実習	3	3	電気	必修	電気・電子実習2 実教

1. 学習の到達目標

電気に関する広い分野に関する基礎的な技術から応用までを実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	基本的概念、諸現象に関心を持ち、その知識と技術を積極的に身に付けようとしている。	基本的概念、諸現象について考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、合理的に処理する能力を身に付けている。	基本的概念、諸現象について、適切に処理すると共に、その成果を的確に表現できる。	基本的概念、諸現象についての知識を習得し、活用できる能力と態度を身に付けている。また、その意義や役割を理解している。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、技術技能、レポート提出状況などを総合的に判断して評価する。			

3. 教科からのメッセージ

電力、電子計測、情報技術、電気機器、制御応用の実習を通して、電気の基礎から応用までを幅広く見据え、日進月歩で変化する電気の新技术に対応できる能力を養う。

3年（電気実習）年間計画表

単位数（3単位） 教科書（実教出版）

目標	電気に関する広い分野に関する基礎的な技術から応用までを、実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。		
月	大項目	中項目	時数
5 班 で ロ ー テ ー シ ョ ン	(A) 電子計測実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. CR 発振回路の製作と特性（1） 2. CR 発振回路の製作と特性（2） 3. マルチバイブレータの製作・特性 4. 増幅回路の特性 5. AM変調回路の特性 6. 検波回路の特性 	140
	(B) 電力計測実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高電圧特性 2. 絶縁材料の絶縁破壊試験 3. 衝撃電圧の測定 4. 過電流継電器の特性試験 5. 送電線路の線路定数の測定 6. 短距離送電線路の電圧降下の実験 	
	(C) 情報技術実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーション基本 2. 静止画の画像処理 基本 3. 静止画の画像処理 応用 4. 動画の画像処理 基本 5. 動画の画像処理 応用 6. プレゼンテーション応用 7. プレゼンテーションの実施練習 	
	(D) 電気機器実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三相誘導電動機の特性試験 2. 電気動力計による三相誘導電動機の負荷試験 3. 三相誘導電動機の世界制御 4. 三相同期発電機の特性試験 5. 三相同期発電機の並行運転 6. 三相同期電動機のV特性 	
	(E) 制御応用実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三相誘導電動機の始動・停止 2. 三相誘導電動機の正転・逆転 3. シーケンス制御（1） 4. シーケンス制御（2） 5. エレベータの制御 6. ロボットの制御 	

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	製図	2	3	電気	必修	電気製図 実教出版

1. 学習の到達目標

製図に関する日本工業規格及び各専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させ、製作図、設計図などを正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	製図に関心を持ち、その基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組みるとともに、製作図や設計図から製作する部品や製品の図面を構想し作成する態度を身につけている。	概念の具現化を図り、創造力を高めることや、内容を吟味し、作成した図面によって思考・判断を深めることができる能力を身につけている。	図面を作成する過程において頭に浮かんだ概念を図面上に具体的に表現し、正しく明瞭に、かつ迅速に作成できる技能を身につけている。	日本工業規格（JIS）における基礎製図及び各専門分野に関する製図について基礎的な知識と技術を習得し、製作図や設計図を正確に理解する能力を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題などの提出物の状況などを総合的に判断して評価する。			

3. 教科からのメッセージ

製図に関する日本工業規格が国際規格との整合性、CAD（コンピュータ支援設計）などに対応できる近代性を盛り込む形で実施しているので、ドラフターを駆使した基本的製図およびコンピュータを用いたCADを並行して学習する。製図一般の基礎的事項について知識と技能を身につけるとともに、電気機器の製作図の作り方や設計の仕方を理解し、電気に関する図記号を使って、電気機器および電気設備の接続図・配線図などを正しく描き、また読む力がつくようにしている。

3年（電気製図）年間計画表

単位数（2単位） 教科書（実教出版）

目標	製図に関する日本工業規格及び各専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させ、製作図、設計図を正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。		
月	大項目	中項目	時数
4	第1章 製図の基礎		
5	5. 平面図形	1. 平面図形の基礎 2. 曲線	25
6	6. 投影図	1. 投影法と投影図の種類 2. 投影図	
7		3. 立体図の表し方	
9	第4章 電気器具	2. カバー付きナイフスイッチ	30
10	第5章 電気設備	2. 自家用変電設備	
11			
12			
1	第7章 CAD 製図	1. CAD システム	15
2		2. CAD システムに関する規格	
3		3. CAD システムによる製図	
計			70

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	電気機器	2	3	電気	選択	電気機器 実教出版

1. 学習の到達目標

各種電気機器の原理、構造、特性、取扱い及びこれらの機器に使用される電気材料に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用できる能力と態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	電気機器に関する事物・現象について関心をもち、その基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、それらの事象を身の回りの生活に関連付けて考察したりしようとする。	電気機器に関する問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、電力技術に関する基礎的な知識を活用して適切に判断し、合理的に処理する能力を身に付けている。	電気機器に関する事物・現象についての基礎的な知識を習得するとともに、規則性を見いだしたり、自らの考え方を導き出したりして創意ある意見・発表を行う。	電気機器に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、実際に活用できる能力と態度も身に付けている。また、その意義や役割を理解している。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価する。			

3. 教科からのメッセージ

電気機器は専門科目の中で最も難しい科目です。授業をしっかりと聞き、分からないところは先生に質問しながら学習を進めてください。2年生で学ぶ電気機器は、直流モータや変圧器について、原理や構造について学びます。最初が大切です。意欲を持って取り組んでください。

3年（電気機器）年間計画表

単位数（2単位）

教科書（実教出版）

目標	電気機器に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用できる能力と態度を育てる。		
月	大項目	指導内容	時数
4	第4章 誘導機	1. 三相誘導電動機 2. 各種誘導電動機 章末問題	35
5			
6			
7			
9			
10	第5章 同期機	1. 三相同期発電機 2. 三相同期電動機 章末問題	35
11			
12			
1			
2			
3			
計			70

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	電力技術	2	3	電気	必修	電力技術2 実教出版

1. 学習の到達目標

照明や電気加熱に関する基礎的な技術を理解させ、活用する能力を育てる。
制御に関する基礎的な知識と技術を習得し、活用する能力を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	照明、電熱、制御に興味・関心を持ち、積極的に学習に取り組むことができる。	これまでの既習事項を活かし、電力技術について発展的に思考・考察し、考えを表現することができる。	電気事象を観察し、実験機器や計測器の機能を正確に理解して取り扱うことができる。	電力技術に関する事象について、各種の公式の意味を理解し、正しく計算することができる。また、種々の電気事象に対して適切な考えをすることができる。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価する。			

3. 教科からのメッセージ

電力技術では、電気エネルギーにかかわる一連の技術を体系的に学ぶ。特に照明や電熱等、電力を使用する側についての知識・技術を習得する。

3年（電力技術）年間計画表

単位数（2単位） 教科書（実教出版）

目 標	電力に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。		
月	大項目	指導内容	時数
4	第6章 照明	1. 光と放射のエネルギー	12
5		2. 光の基本量と測定法 3. 光源 4. 照明設計	
6	第7章 電気加熱	1. 電熱の基礎 2. 各種の電熱装置 3. 電気溶接	9
7	第8章 自動制御	1. 自動制御の概要 2. シーケンス制御 3. フィードバック制御	16
9	第9章 コンピュータ による制御	1. コンピュータと制御	10
10		2. 制御コンピュータ 3. コンピュータによる制御	
11	第10章 電気化学	1. 電池 2. 表面処理 3. 電解化学工業	10
12	第11章 電気鉄道	1. 電気鉄道の特徴と方式 2. 鉄道線路 3. 電気車 4. 信号と保安 5. 特殊鉄道	5
1	第12章 電力応用	1. ヒートポンプ 2. 加熱調理器 3. 静電気現象の応用 4. 超音波とその応用 5. 自動車への応用	7
計			70

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	電子技術	2	3	電気	選択	電子技術 実教出版

1. 学習の到達目標

電子技術の概要、通信システムの基礎、画像通信の基礎、音響機器の基礎、電子計測の基礎によって構成されている。これらの各分野の基礎的な知識と技術について相互の関連を総合的に学習し、実際に活用する能力と態度を育てる。電子技術は、現代のエレクトロニクス社会で重要な役割を果たしているが、直接その機能や構造を観察することは困難であるため、簡単な回路事例や設置例を取り上げ、理解をはかり、最終的にはエレクトロニクス利用技術を身に付ける。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	電子技術に関する事物・現象について関心をもち、その基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組むとともに、それらの事象を身の回りの生活に関連付けて考察したりしようとする。	電子技術に関する問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、電子技術に関する基礎的な知識を活用して適切に判断し、合理的に処理する能力を身に付けている。	電子技術に関する事物・現象についての基礎的な知識を習得するとともに、規則性を見いだしたり、自らの考え方を導き出したりして創意ある意見・発表を行う。	電子技術に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、実際に活用できる能力と態度も身に付けている。また、その意義や役割を理解している。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価する。			

3. 教科からのメッセージ

現代社会では、最新のエレクトロニクス機器が我々の生活を支えている。このような機器に組み込まれている電子回路について、基礎的な知識・技能・技術を学ぶ。

3年（電子技術）年間計画表

単位数（2単位）

教科書（実教出版）

目 標	電子技術に関する専門的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。		
月	大項目	指導内容	時数
4	第4章 通信システムの基礎	1. 有線通信システム	28
5		2. 無線通信システム	
6		3. データ通信システム	
7		4. 通信関係法規 章末問題	
9	第5章 画像通信	1. ファクシミリ	42
10		2. テレビジョン	
11		3. ビデオ録画・再生装置	
12		4. デジタル通信	
1		章末問題	
2			
3			
計			70

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
工業	電子計測制御	2	3	電気	選択	電子計測制御 実教出版

1. 学習の到達目標

電子計測および電子制御に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	電子計測制御について関心をもち、その基礎的な知識と技術の習得に意欲的に取り組みるとともに、それらの事象を身の回りの生活に関連付けて考察したりしようとする。	電子計測制御に関する問題の適切な解決を目指して広い視野から自ら考え、電子計測制御に関する基礎的な知識を活用して適切に判断し、合理的に処理する能力を身に付けている。	電子計測制御についての基礎的な知識を習得するとともに、規則性を見いだしたり、自らの考え方を導き出したりして創意ある意見・発表を行う。	電子計測制御についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付け、実際に活用できる能力と態度も身に付けている。また、その意義や役割を理解している。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価する。			

3. 教科からのメッセージ

現代社会では、コンピュータを使った電子計測制御を利用した機器が、私たちの周りに数多く取り入れられている。このような電子計測制御の重要な部分である A-D 変換、D-A 変換等について、基本的な原理や構造をわかり易く学ぶ。また、コンピュータに関する知識も必要になってくるので、これらの学習も必要である。

3年（電子計測制御）年間計画表

単位数（2単位）

教科書（実教出版）

目標	電子計測および電子制御に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。		
月	大項目	指導内容	時数
4	第1章 電子計測制御の概要	1. 電子計測制御の考え方 2. センサとアクチュエータ 3. データ変換とデータ処理 4. 電子計測機器 章末問題	20
5			
6			
7	第2章 シーケンス制御	1. シーケンス制御の基礎 2. シーケンス制御に使われる機器 3. シーケンス制御の基本回路 4. プログラマブルロジックコントローラ 章末問題	20
9			
10			
11	第3章 フィードバック制御	1. フィードバック制御の基礎 2. 信号の伝達と伝達関数 3. フィードバック制御システムの応答と安定性 4. フィードバック制御システムの制御装置 5. フィードバック制御システムの実例 章末問題	20
12			
1			
2	第4章 コンピュータによる制御	1. コンピュータ制御の基礎 2. 制御装置とインタフェース 3. コンピュータによる計測制御システム 章末問題	10
3			
計			70